

2021年9月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横這い圏内の動きとなっている」と、前回と同様の判断です。基調判断としては、2月以降、横這いが続いています。
- 需要項目ごとの判断も、変更はありません。個人消費は、低い水準となっており、横這い圏内の動きとなっているほか、観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっています。また、公共投資は、高水準となっており、住宅投資は、緩やかに持ち直しています。
- 雇用や金融面についても、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（9月調査）は、全産業の業況判断DIが+7（6月+5、▲は「悪い」超過）と、前回調査比改善しました。「良い」超過は2期振りです。製商品・サービス需給判断は、今回、供給超幅が縮小し（6月▲15→9月▲7、▲は供給超過）、需給バランスは全体として改善しました。また、生産・営業用設備判断（6月+3→9月±0、▲は不足超過）も、これまで非製造業を中心に過剰超過の状態にありましたが解消しました。雇用人員判断（6月▲25→9月▲30、▲は不足超過）は、4期振りに不足超幅が拡大しました。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、7月は前年を幾分上回りましたが、8月は前年を若干下回りました。巣ごもり需要に加え、猛暑による季節商品の販売増加もあって、食料品は底堅い動きを維持していますが、衣料品は低調が続いています。大規模店舗では、7月は6月下旬の緊急事態宣言の解除を受け、来店

客数、売上ともに回復しましたが、8月はまん延防止等重点措置とその後の緊急事態宣言の発令もあって、再び来店客数、売上とも減少しました。また、家電販売は、記録的な猛暑の影響もあってエアコンを中心に、全体としては堅調な動きとなっています。

- 新車登録台数は、7月、合計が前年を幾分下回りましたが、8月は合計が前年を幾分上回りました。除く軽が7月、8月ともに前年を上回った一方、軽は7月は前年を大きく下回り、8月も前年を若干下回りました。この結果、合計は、軽に引きずられる形で一進一退の動きとなりました。半導体不足や部品不足によるメーカーからの完成車供給の遅れが新車登録に影響を及ぼしています。自動車ディーラーでは、来店客数が概ね横這いで推移する中、新型車投入の効果もあって相應に受注を獲得できており、納車までの期間の長期化から受注残が積み上がっています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、7月、8月ともに全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。6か月連続の前年比プラスです。もっとも、これは、前年が感染症の影響で大幅減となったためであり、前々年との比較では、4割程度に止まっています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、7月、8月は定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、これで18か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、7月は前年を上回りましたが、8月は6か月振りに前年を下回りました。7月が前年を上回ったのは、6月下旬の緊急事態宣言の解除、7月上旬のまん延防止等重点措置の解除で行楽需要が幾分回復したほか、前年が感染症の影響で大幅減となっていたためです。一方、8月が前年を下回ったのは、前年がGoToトラベルやどうみん割の効果から宿泊客数が緩やかに持ち直していたためです。ただ、前々年との

比較では、7月、8月ともに大幅なマイナスとなっており、引き続き、弱い動きとなっている点は変わりありません。旭川市内のホテル客室稼働率も、7月は前年を上回りましたが、8月は6か月振りに前年を下回りました。こちらもホテル・旅館宿泊客数と同様の動きであり、前々年との比較では、大幅なマイナスとなっています。

- 各地観光施設の入込みは、7月は旭山動物園、層雲峡が前年を下回ったものの、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーが前年を上回ったことから、合計でも前年を幾分上回りました。一方、8月は博物館網走監獄が前年を上回ったものの、旭山動物園、層雲峡、ウトロ温泉、利尻・礼文フェリーが前年を下回ったため、合計でも前年を下回りました。このように、各施設によって多少差はみられますが、合計はこちらもホテル・旅館宿泊客数と同様の動きです。全ての地域・施設において、前々年の水準を大きく下回っています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、7月はオホーツクが前年を下回ったものの、上川、宗谷が前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を上回りました。8月は上川、宗谷が前年を上回ったものの、オホーツクが前年を大きく下回ったことから、全体でも前年を幾分下回りました。2021年4月以降の累計では、上川が前年を上回ったものの、宗谷、オホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、6月は持家、貸家、分譲の全てで前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を大きく上回りました。7月は持家が前年を上回り、分譲が前年並みとなりましたが、貸家が前年を大きく下回ったこ

とから、全体でも前年を下回りました。基調としては、持家が一進一退の動きとなっている一方、貸家は増加しています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、6月、7月とも旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を上回りました。6月は旭川が1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍を上回ったことから、また7月は旭川が丁度1倍となる中、稚内、北見、網走が1倍を上回ったことから、それぞれ全体でも1倍超えとなりました。新規求人数は、6月、7月とも旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を上回ったことから、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、前年を上回りました。もっとも、これは、前年の新規求人数がコロナ禍で落ち込んだことが影響しており、前々年を下回っています。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、7月、8月とも前年を上回りました。8月まで30か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 道北地域の日銀短観（9月調査）の事業計画では、2021年度の売上高は、減少する計画（前年度比：▲0.8%）の一方、経常利益（同：+5.7%）、当期純利益（同：7.0倍）は、増加する計画です。6月調査からは、売上高はほぼ横這いですが、経常利益、当期純利益は上方修正（修正率：売上高0.0%、経常利益+31.9%、当期純利益+15.7%）されています。この間、設備投資計画は、2020年度が減少

(前年度比：▲8.9%)となった後、2021年度も極めて慎重な計画(同：▲52.1%)となっていますが、6月調査比では上方修正(修正率：+9.6%)されています。

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き、感染症の動向とその影響がポイントになると考えられます。ワクチン接種の進捗等により感染症の影響が徐々に和らいでいくも、対面型サービス消費を含めて持ち直していくとみられますが、変異株の動向など、不確実性が高く、下振れリスクが大きい点には注意が必要です。具体的には、①緊急事態宣言解除後の観光、消費の動向、②原材料価格が上昇する中での価格転嫁の動きやそれが企業収益に与える影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面に注意を払いたいと思います。

以 上